

研究課題名トピロキソスタットによる尿アルブミン低下効果の解明に関する情報公開

1. 研究の対象

2014年9月12日から2019年3月18日までに行われた「糖尿病性腎症を合併した高尿酸血症患者におけるトピロキソスタットの尿アルブミン低下作用の検討」に参加された方

2. 研究目的・方法・研究期間

名古屋大学腎臓内科教室では、「糖尿病性腎症を合併した高尿酸血症患者におけるトピロキソスタットの尿アルブミン低下作用の検討」;ETUDE 研究を行いました。その研究で、糖尿病性腎症を合併した高尿酸血症の患者さんにおける、トピロキソスタット(ウリアデック)の投与は、尿酸低下作用のみならず、尿蛋白低下作用があることを実証しました。

トピロキソスタット(ウリアデック)の尿蛋白低下作用の機序が解明されれば、今後の慢性腎臓病の管理における薬剤選択に非常に有用です。これまでの、基礎研究では、トピロキソスタット(ウリアデック)には、酸化ストレス、炎症、レニンアンジオテンシン系の亢進を軽減する可能性が示されています。糖尿病性腎症におけるアルブミン尿の出現、増加の一因として、酸化ストレス、炎症、レニンアンジオテンシン系の亢進が関与していることがわかってきました。

(目的)

そこで今回の検討では、今回我々が ETUDE 研究で実証した尿蛋白低下作用が、酸化ストレス、炎症、レニンアンジオテンシン系の亢進の軽減と関連があったか、尿中 8OHdG、尿中 MCP-1、尿中アンジオテンシノーゲン値を使用し、統計学的に評価することを目的とします。

(方法)

ETUDE 研究で作成されたデータシートを用いて統計解析を行います。

(研究期間)

実施承認日から 2020 年 3 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

「糖尿病性腎症を合併した高尿酸血症患者におけるトピロキソスタットの尿アルブミン低下作用の検討」の参加時に、診療上の既存情報として収集した以下の項目

Cr、AST、ALT、ALP、T-Bil、TC、TG、HDL-c、LDL-c、HbA1c、Glu、BUN、Hb、尿タンパク定量、尿アルブミン定量、尿中 L-FABP

「糖尿病性腎症を合併した高尿酸血症患者におけるトピロキソスタットの尿アルブミン低下作用の検討」の参加時に、研究目的で測定した以下の項目

尿中 8-OHdG、MCP-1、アンジオテンシノーゲン

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

特任講師 加藤 佐和子

住所 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL:(052)744-2192

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学

教授 丸山 彰一

-----以上